

マルコの福音書 9 章 2-13 節 イエスにつき従う者は、救い主の栄光を知っている

今日は、マルコの福音書に戻り、「イエスにつき従う」とは何を意味するかについての学びを続けます。私たちは6月に、マルコの福音書のクライマックスであり転換点である部分を読み終えたところで、このシリーズをいったん中断しました。それは**マルコの福音書 8 章 29 節**に、²⁹ **するとイエスは、彼らにお尋ねになった。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」** **ペテロがイエスに答えた。「あなたはキリストです。」**とある、ペテロの告白の部分でした。この告白に続き、イエスは弟子たちに、これから起こるご自身の死と復活について明確に教えました。これによりイエスは、ご自身について、どう彼らが理解すべきかを教えようとしていました。なぜならペテロは、イエスの問いに対して正しい答えは言っているものの、イエスが本来どんなお方であるか、完全には理解していなかったからです。**マルコの福音書 8 章 32-33 節**に、ペテロの反応が次のように書いてあるとおりです。³² **イエスはこのことをはっきりと話された。するとペテロは、イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。**³³ **しかし、イエスは振り向いて弟子たちを見ながら、ペテロを叱って言われた。「下がれ、サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」**マルコの福音書 8 章におけるイエスの目的は、イエスに対する私たちの認識、イエスの本質に対する私たちの理解を正すことでした。マルコの福音書 9 章におけるイエスの目的は、**イエスの弟子たちが、ご自身の本質について、ただ聞くだけでなく、実際に目で見えるようにすることです。**それが、これから読む出来事において、イエスの 3 人の弟子が、彼らの救い主の栄光を体験する中で示されていることです。まずは 2-4 節から、ここで起きた出来事の説明を読みましょう。² **それから六日目に、イエスはペテロとヤコブとヨハネだけを連れて、高い山に登られた。すると、彼らの目の前でその御姿が変わった。**³ **その衣は非常に白く輝き、この世の職人には、とてもなし得ないほどの白さであった。**⁴ **また、エリヤがモーセとともに彼らの前に現れ、イエスと語り合っていた。**

これは、変容と呼ばれる出来事です。変容とは、形または姿の変化という意味です。イエスの場合、その姿が変わったことで、ペテロ、ヤコブ、ヨハネが、イエスの天なる栄光の、完全な状態を垣間見ることができました。**その衣は非常に白く輝き、この世の職人には、とてもなし得ないほどの白さであった。**とあるとおりです。変容について書いている福音書の著者のうち、前の章での出来事と、変容の間に 6 日間あったと具体的に書いているのはマルコだけです。マルコが具体的な日数を書いていることには、おそらく理由があります。山の上での出来事であること、神の栄光が現れたときの輝きなどの記述とあわせて考えると、シナイ山でのモーセの体験とのつながりを示していると考えられます。旧約聖書において、神がモーセを通してイスラエルの人々と契約を結んだとき（私たちはこれを「モーセの契約」と呼んでいます）から始まる 6 日間、山の上で、神の臨在が人々に示されたからです。この出来事は、**出エジプト記 24 章 15-18 節**に次のように書かれています。¹⁵ **モーセが山に登ると、雲が山をおおった。**¹⁶ **主の栄光はシナイ山の上にとどまり、雲は六日間、山をおおっていた。七日目に主は雲の中からモーセを呼ばれた。**¹⁷ **主の栄光の現れは、イスラエルの子らの目には、山の頂を焼き尽くす火のようであった。**¹⁸ **モーセは雲の中に入って行き、山に登った。そして、モーセは四十日四十夜、山にいた。**モーセは、聖書に記されている、地上での生涯において神の臨在と栄光をかなり近くで体験した数少ない人のうちのひとりです。このように神の栄光を体験することは、イエスと物理的に共にいた、イエスの弟子たちやほかの人々の経験とも異なるものでした。イエスは神であられた方、今も神ですが、私たちの救い主となるために、自ら人となったと聖書に書かれています。**ヨハネの福音書 1 章 14 節**に、¹⁴ **ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。**とあるとおりです。ですから、地上でイエスと物理的に共に歩くことは、人としてのイエスを見ることであって、物理的にイエスの栄光を体験することとは違いました。普通の人には、イエスはほかの人間の男性となんら変わらなく見えました。むしろ、イエスは見た目では人々をひきつけるような、特別見栄えのする人ではなかったかもしれません。旧約聖書の**イザヤ書 53 章 2 節**において、新約聖書でイエスであると明かされるメシアについて、預言者イザヤは次のように書いています。² **彼は主の前に、ひこばえのように生え出た。砂漠の地か**

ら出た根のように。彼には見るべき姿も輝きもなく、私たちが慕うような見栄えもない。したがって、イエスが人間の状態にあったとき、イエスの周囲の人々は、イエスの近くにいることで神の栄光を確かに経験していたものの、それは目に見える形で現れているものではありませんでした。

しかしイエスはここで、最も親しい3人の弟子に、神が律法、十戒を与え、イスラエルの民との契約を結んだときに神がご自身を現したときのモーセと同じように、神の栄光を体験する機会を与えています。イエスはこの3人の弟子に、そこにいたのはモーセとエリヤであると明かしたはずですが、そうでなければ、3人は彼らを認識できなかったでしょう。この時点で、少なくともペテロが前の章で語った言葉からすると、弟子たちはイエスが神であると信じていたと考えられます。しかしいまや、イエスの真の栄光が弟子たちの目の前で示されるのです。それがどんな体験であるか、想像できるでしょうか？モーセが神と共にいたとき、モーセの顔に神の栄光が直接あたり、ものすごい輝きを放ったため、モーセはイスラエルの人々と話すとき顔に覆いをかぶせました。人々がその輝きを恐れたからです。そして、イエスの弟子たちも、同じ輝きと栄光を目の当たりにしているのだと想像できます。それを見たら、私たちの大部分は、圧倒的な畏怖の念、恐怖すら抱くでしょう。未知のものに直面すると、言葉を失ったり、あるいは逃げようとしたりする人もいれば、とにかくその場の緊張を解こうとして、何を言ったらよいのかよくわからないけど喋りだす人もいます。こういうことをするのはもちろんペテロです。5節から読み、**変容に対する反応を見ていきましょう。**⁵ **ペテロがイエスに言った。「先生。私たちがここにいることは素晴らしいことです。幕屋を三つ造りましょう。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」**⁶ **ペテロは、何を言ったらよいのか分からなかったのである。彼らは恐怖に打たれていた。**⁷ **そのとき、雲がわき起こって彼らをおおい、雲の中から声がした。「これはわたしの愛する子。彼の言うことを聞け。」**⁸ **彼らが急いであたりを見回すと、自分たちと一緒にいるのはイエスだけで、もはやだれも見えなかった。**

ペテロはいつものように、何か言わずにはいられないのです。ペテロは弟子たちのグループの代弁者的な存在ですが、このとき恐怖のあまり、何を言ったらよいかわからず、幕屋を三つ作りましょう、という一見おかしい提案をします。明らかに、ペテロはこの出来事の本質を理解していなかったようです。実は、ユダヤ人の感覚からすると、ペテロの提案は意味不明なわけではありません。イスラエルの人々が約束の地を目指して荒野を旅していたとき、神は彼らの間で、幕屋の中に住まわれました。しかしイスラエルの人々やペテロは、神の意図は、地上における建物に住まうことではなく、別の形、つまりイエス・キリストを通して地上に住まわれることであったと理解していませんでした。それは使徒の働き 17章に書かれた、使徒パウロのアテナイ人に対する説教において明らかにされています。**使徒の働き 17章 24-25節に、²⁴ この世界とその中にあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手で造られた宮にお住みにはなりません。**²⁵ **また、何か足りないかのように、人の手によって仕えられる必要もありません。神ご自身がすべての人に、いのちと息と万物を与えておられるのですから。**と書かれています。神が人の建物には住まわれないということを知った上で、**ヨハネの福音書 1章 14節**をもう一度見てみると、**ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。**とあります。この「住まう」という言葉は、直訳すると「幕屋を張る」という意味になります。神は、人間が建てる幕屋ではなく、人となられたイエスご自身を通して、私たちの間に住まわれるのです。このようにして私たちは、その栄光を十分に体験することができます。私たちは、当時のイエスの弟子たちのように、実際に目で見ることを通してではなく、自分の罪を悔い改め、イエス・キリストを主として救い主として受け入れることで、神の栄光を体験します。イエスは私たちを父なる神と結びつけてくださいます。そして私たちは、神の栄光を、今は霊的に、来たる永遠の日々においては直接、物理的な形で体験できます。

また、先ほど読んだ聖書箇所にも、神の栄光の本質についてもうひとつの鍵があります。父なる神の声が、雲の中から聞こえたことです。これは、イエスがバプテスマを受けたときにも、起こっ

たことです。イエスのバプテスマについて、私たちは、マルコの福音書 1 章 9-11 節に次のように書いてあるのを読みました。¹⁰ イエスは、水の中から上がるとすぐに、天が裂けて御霊が鳩のようにご自分に降って来るのをご覧になった。¹¹ すると天から声がした。「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。そして今日読んだ変容の箇所で、「これはわたしの愛する子。彼の言うことを聞け。」という父なる神の声かふたたび聞こえます。ペテロは、神の栄光を前にして何を言ったらいいかに気を取られ、イエスに耳を傾ける機会を逃しました。イエス、モーセ、エリヤの会話を想像できますか？シナイ山で神の律法を直々に授かった人物、偶像バアルの礼拝に対し天から主の火を呼んだ預言者、そして御子なる神ということです。このとき交わされていた会話の内容は、地上の生活に関するささいなことではなかったはずで、モーセとエリヤは、神の住まいである天からやって来て、完全に人でありながら、完全に神であった方、宇宙の永遠の神、モーセとエリヤがいま戻ってきている世界そのものをお造りになった方と語り合っていたのです。そしてこの出会いにおいて神は、シナイ山でモーセに示されたのと同じように、ご自身の栄光は、地上のどんな住まいにもとどまらないことを示されました。シナイ山では、モーセが神の臨在を雲の中に見ましたが、この変容の出来事の際には、神の声か雲の中から降りてきました。2つの出来事の間、明らかなつながりから、ペテロの申し出と、恐怖に対する的外れな対処の仕方には、神の栄光の意義が見えていないことが示されているといえます。神の栄光を前に、私たちは恐れをもって礼拝しますが、これは神の好意を得るためではありません。ペテロは直ちに、自分に何ができるかと考えましたが、神は救い主の言うことを聞けと言われました。

そして、突然始まったこの変容は、突然終わります。モーセとエリヤは、父なる神とともに住まう天の永遠の家に戻り、イエスだけが残りました。山の上での変容は、モーセが経験したのと同じ神の栄光とのつながりを示すことが焦点であったのに対し、山を下りる際にはエリヤに焦点が当てられています。9-13 節を読みましょう。⁹ さて、山を下りながら、イエスは弟子たちに、人の子が死人の中からよみがえる時まで、今見たことをだれにも話してはならない、と命じられた。¹⁰ 彼らはこのことばを胸に納め、死人の中からよみがえると言われたのはどういう意味か、互いに論じ合った。¹¹ また弟子たちは、イエスに尋ねた。「なぜ、律法学者たちは、まずエリヤが来るはずだと言っているのですか。」¹² イエスは彼らに言われた。「エリヤがまず来て、すべてを立て直すのです。それではどうして、人の子について、多くの苦しみを受け、蔑まれると書いてあるのですか。」¹³ わたしはあなたがたに言います。エリヤはもう来ています。そして人々は、彼について書かれているとおり、彼に好き勝手なことをしました。」イエスにご自身の本当の身分について黙っているように命じるのは、これが最後の最後です。ここでの、誰にも言ってはならないという命令は、イエスが地上に来た真の目的に関係していることは、確かでしょう。イエスは復活した後、永遠に、神の栄光のうちに存在することになります。変容により弟子たちが味わい、知ったのは、この栄光です。イエスはその栄光を捨て、ひとつの目的のために地上に来られました。その目的は、イエスの死と復活によってのみ、明らかになります。この目的は、使徒パウロが、テモテへの手紙第一 1 章 15 節に記しています。¹⁵ 「キリスト・イエスは罪人を救うために世に来られた」ということばは真実であり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。イエスの目的は罪人を救うことであり、それは、単にご自身の栄光を示すことでは成し得ませんでした。それは、イエスが十字架の上で死に、よみがえることによって成し遂げられました。こうして、3人の弟子だけでなく、世のすべてが、御子なる神としてのイエスの真の身分を知ることになります。この栄光は、イエスがよみがえった後はじめて明かされるものです。よみがえりは、もちろん、死の後になされることです。イエスの目的はご自身の栄光でしたが、その栄光を明らかにしたのはイエスの死とよみがえり、罪を悔い改めイエスを主として救い主と信じ、つき従うすべての者に救いをもたらす死とよみがえりでした。

エリヤがイエスと共にいるのを自分の目で見たあと、弟子たちはエリヤのことを考えていました。そして話題を変えるように、弟子たちはイエスにエリヤのことを聞きます。そしてイエスは、これをきっかけに、これまでご自身の死について語ってきたことに、さらなる裏付けを与え

ます。弟子たちはエリヤを見たので、これが、律法学者やユダヤ教の学者が旧約聖書を教えて語ったことかもしれないと思ったのは自然なことです。12 節に、¹² **イエスは彼らに言われた。「エリヤがまず来て、すべてを立て直すのです。」**とあるように、イエスはこの弟子たちの理解は正しいと認めます。これは旧約聖書の記述に基づいており、例えば**マラキ書 4 章 5-6 節**には次のようにあります。⁵ **見よ。わたしは、主の大いなる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。**⁶ **彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、この地を聖絶の物として打ち滅ぼすことのないようにするためである。**しかし、メシヤが地上の王座に就く前にエリヤが来る、というユダヤ教の教師の教えは正しいものの、12 節にあるイエスの説明では、エリヤの出現が、**多くの苦しみを受け、蔑まれる**ことになるメシヤと結び付けられています。

神の栄光を驚くべき形で目にした後ですら、弟子たちは、イエスがメシヤとして来て成し遂げようとしている目的を誤解し続けていました。神の栄光は、地上の幕屋、あるいは城や宮殿に住むことで現わされようとしているものではありませんでした。**人の子**というのはメシヤの呼称のひとつです。神の栄光は、この人の子が苦しみを受け、私たちの罪のために死ぬことで現わされようとしていました。

同じように、旧約聖書に書かれていた預言者エリヤの本当の再来である、バプテスマのヨハネも、苦しみを受けました。首をはねて処刑されたのです。イエスが 13 節の終わりで述べているのはこのことなのです。**「エリヤはもう来ています。そして人々は、彼について書かれているとおり、彼に好き勝手なことをしました。」**イエスに先立ってバプテスマのヨハネが経験したように、イエスも処刑されることになりましたが、イエスの死は、ほかの誰の死をもってでも不可能であったことを成し遂げます。**ローマ人への手紙 5 章 19 節**に、**すなわち、ちょうど一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、一人の従順によって多くの人が義人とされるのです。**と書かれているとおりです。イエスの従順とは、十字架の上で死ぬことでした。この死において、イエスの栄光が最も偉大に示されます。なぜなら、イエスが墓からよみがえったように、私たちが罪を悔い改め、救い主であり主としてイエスにつき従うとき、罪人であり、死に定められている私たちにイエスの恵みが差し伸べられ、私たちに与えられるイエス・キリストの義によって、いのちを受け取るからです。しかし私たちは、クリスチャンとして何を「する」ことができるかに集中するあまり、私たちの救い主がいかに栄光に満ちているのかを実感できていないことが、いかに多いでしょうか。ペテロのように、私たちは、イエスに仕えるためにまずできることをとにかくやろうとし、イエスに耳を傾け、イエスから学び、イエスの栄光を体感し、よりイエスに似た者となろうとすることに心を向けません。そして、イエスに似た者となるのは、何かを「する」ことによるものではありません。それは関係や状態に「ある」ことから来るものです。イエスを私たちに指し示す神のことばを読んだり、祈りの時間を過ごしながら、イエスと共にあること。教会に集まってイエスを礼拝し、イエスの弟子として共に学びながら、イエスの民と共にあること。私たちクリスチャンの本当に多くの生き方が、周囲のクリスチャンでない人々の生き方と違いがないのはなぜでしょうか？それは、私たちのキリストとの歩みが、福音に示されるイエスの栄光を経験することではなく、私たちの行いになってしまっているからです。教会に行くこと、日曜学校に行くこと、食前の祈りすること、などです。ここで、私たちは最も大事なことを忘れてしています。イエスに耳を傾け、イエスと共に時間を過ごし、イエスの弟子として私たちが知りえるイエスの栄光を十分に経験することです。祈りましょう。

Mark 9:2-13 The Followers of Jesus know the glory of their Savior

Today, we return to our study from the book of Mark on what it means to “follow Jesus.” Back in June when we took a break from this study, we had just finished looking at the climax and turning point of the book of Mark. That occurs with Peter announcing in [Mark 8:29](#), [29 And he asked them, “But who do you say that I am?” Peter answered him, “You are the Christ.”](#) Following that declaration, Jesus tells them clearly about his coming death and resurrection, because he wanted to teach them how to think about Jesus, how to think about himself. Because what was very clear is that even though Peter gave the right answer, he didn’t fully understand who Jesus was. We saw this in Peter’s response in [Mark 8:32-33](#). […And Peter took him aside and began to rebuke him. 33 But turning and seeing his disciples, he rebuked Peter and said, “Get behind me, Satan! For you are not setting your mind on the things of God, but on the things of man.”](#) Jesus’s goal in Mark 8 was to correct how we think about Jesus and how we understand his nature. In Mark 9, **Jesus’s goal is to allow them to not just HEAR about, but to SEE his true nature.** That is what is revealed in this event when these 3 followers of Jesus experience the glory of their Savior. Let’s begin at verses 2-4 with *the account of the event that happened*. [2 And after six days Jesus took with him Peter and James and John, and led them up a high mountain by themselves. And he was transfigured before them, 3 and his clothes became radiant, intensely white, as no one on earth could bleach them. 4 And there appeared to them Elijah with Moses, and they were talking with Jesus.](#)

We call this event the transfiguration, which means a change of form or appearance. In Jesus’s case, his change of appearance allowed Peter, James and John to get a glimpse of his full Heavenly glory. [… his clothes became radiant, intensely white, as no one on earth could bleach them.](#) Mark is the only Gospel writer to give us an exact number of days- 6- between the events of the previous chapter and the transfiguration. There seems to be a likely reason he does this. This along with other details like being on a mountain, like the brightness of God’s glory as it is revealed…they point to a connection with Moses’s experience on Mount Sinai. In the Old Testament when God made a covenant with the people of Israel through Moses that we call the “Mosaic Covenant,” it began with a 6 day period of God’s presence before the people on the mountain. We read about this event in [Exodus 24:15-18](#) [Then Moses went up on the mountain, and the cloud covered the mountain. 16 The glory of the Lord dwelt on Mount Sinai, and the cloud covered it six days. And on the seventh day he called to Moses out of the midst of the cloud. 17 Now the appearance of the glory of the Lord was like a devouring fire on the top of the mountain in the sight of the people of Israel. 18 Moses entered the cloud and went up on the mountain. And Moses was on the mountain forty days and forty nights.](#) Moses is one of the few men recorded in Scripture to have personally come very close during his human life to the very presence and glory of God. This experience of God’s glory was different than even the experience of the disciples and others as Jesus was physically in their presence. Remember, Jesus is and was God, but had willingly become human, “became flesh,” as the Bible says in order to become our Savior. [John 1:14](#) tells us, [And the Word became flesh and dwelt among us, and we have seen his glory, glory as of the only Son from the Father, full of grace and truth.](#) So, to walk with Jesus physically on earth was not to experience his glory in a physical way, but to see him in his humanity. To the average person, he looked just like any other human male. In fact, he may not have been a particularly handsome man who would have attracted people by his looks. When the Prophet Isaiah describes the Messiah, who is

revealed to be Jesus in the New Testament, he says in [Isaiah 53:2](#), [For he grew up before him like a young plant, and like a root out of dry ground; he had no form or majesty that we should look at him, and no beauty that we should desire him.](#) So, in his normal human state, those around Jesus surely experienced God's glory in being near Jesus, but not in a way visible to onlookers seeing with their eyes.

But now, Jesus gives his inner circle, these 3 disciples the chance to experience the glory of God in the way that Moses himself had when God revealed himself by giving the law, the 10 Commandments and establishing a covenant with the people of Israel. Jesus must have introduced Moses and Elijah to the three disciples, otherwise how could they recognize them? At this point, the disciples believed Jesus was God, or at least it seems that way through Peter's words of the last chapter. But now to see His true glory revealed right in front of them. Can you imagine what that must have been like? When Moses spent time with God, his face became so bright from God's glory directly shining on him that the people of Israel asked him to wear a mask because it scared them. And I can imagine that this is that same level of brightness and glory that the disciples are exposed to now. For most of us, the response would be an overwhelming sense of awe and even fear seeing this happen. Sometimes in the face of the unknown some of us are just dead silent or try to run away, while others tend to talk without really having any idea of what to say...but just needing to say something to break the tension of the event. This is of course our friend, the disciple and apostle Peter. Let's read starting in verse 5 *the response to the event of transfiguration*. [5 And Peter said to Jesus, "Rabbi, it is good that we are here. Let us make three tents, one for you and one for Moses and one for Elijah."](#) [6 For he did not know what to say, for they were terrified.](#) [7 And a cloud overshadowed them, and a voice came out of the cloud, "This is my beloved Son; listen to him."](#) [8 And suddenly, looking around, they no longer saw anyone with them but Jesus only.](#)

Peter as usual just has to say something. He generally acts as a spokesman for the group of disciples, and in his fear, he didn't know what to say, so he made what seems to be a ridiculous suggestion to build three tents. Clearly, he didn't understand the nature of this moment. In a Jewish sense, Peter's suggestion is actually understandable. God dwelled in a tabernacle or tent with the Jews in the wilderness while the Israelites wandered around on their way to the promised land. But the Israelites did not grasp and neither does Peter that God does not live in earthly temples, and his intention was to dwell on earth in a different way through Jesus Christ. The Apostle Paul makes this clear in his sermon to the Athenians in Acts 17. [Acts 17:24-25](#) says, [24 "The God who made the world and everything in it is the Lord of heaven and earth and does not live in temples built by human hands.](#) [25 And he is not served by human hands, as if he needed anything. Rather, he himself gives everyone life and breath and everything else.](#) When we connect that idea of God not living in human houses, and then look back at [John 1:14](#) again which says, [And the Word became flesh and dwelt among us...](#) That word "dwelt" literally means "pitched a tent." God dwells or lived among us in a human way, not through a tent or tabernacle, but through Jesus himself who took on flesh to become human so we could fully experience his glory. We experience all the glory of God not through a physical experience of seeing like the disciples, but by repenting of our sin and accepting Jesus Christ as our Lord and Savior. Jesus unites us to God the Father and we experience God's glory in a spiritual way now, and in a physical way in eternity.

There is another clue here in these verses about the nature of God's glory. God the father's voice comes out of the clouds in the same way it happened at Jesus's baptism. When Jesus was baptized in [Mark 1:9-11](#) we read, [10 And when he came up out of the water, immediately he saw the heavens being torn open and the Spirit descending on him like a dove. 11 And a voice came from heaven, "You are my beloved Son; with you I am well pleased."](#) Here at the transfiguration, God the Father now speaks again and says ["This is my beloved Son; listen to him."](#) Peter was so focused on what to say and do in light of God's glory that he missed the opportunity to listen to Jesus. Can you imagine the conversation between Jesus and Moses and Elijah? The man who personally received God's law on Mount Sinai, the prophet who called down fire from heaven in response to the false worship of Baal, and God the Son himself. I'm sure the conversation that was happening at that time was not on any trivial matters related to life here on earth. Moses and Elijah had come from Heaven itself, the place of God's dwelling and were talking to the eternal God of the universe who while fully human is also fully God and had created the world they now returned to. And just like with Moses on Mount Sinai, God showed in the encounter that his glory could never be contained in any kind of earthly dwelling. God's presence on Mount Sinai was seen by Moses in the clouds and the voice of God the Father comes down out of the clouds in this event of the transfiguration. So, the clear connections between the two events show that Peter's request in addition to being a misplaced way of dealing with his fear, more importantly misses the significance of God's glory. In the presence of God's glory, we worship in fear of God, not work to earn his favor. Peter immediately thought what could he do, while God said, listen to the Savior.

And just as unexpected as the event begins, the transfiguration comes to an end. Moses and Elijah leave to return to their place in their eternal home in Heaven with the Father, and only Jesus remains. While the transfiguration on the mountain focused on the connection to God's glory as Moses experienced, the trip down the mountain focused on Elijah. Let's read verses 9-13. [9 And as they were coming down the mountain, he charged them to tell no one what they had seen, until the Son of Man had risen from the dead. 10 So they kept the matter to themselves, questioning what this rising from the dead might mean. 11 And they asked him, "Why do the scribes say that first Elijah must come?" 12 And he said to them, "Elijah does come first to restore all things. And how is it written of the Son of Man that he should suffer many things and be treated with contempt? 13 But I tell you that Elijah has come, and they did to him whatever they pleased, as it is written of him."](#) This is the very last time that Jesus commands to keep silent about his true identity. Again, we can say with certainty here that the command to silence is related to his true purpose for coming. The disciples had gotten a taste of the glory of God that Jesus would exist in for eternity after the resurrection. He left that glory temporarily to come to earth for one purpose that could only be revealed in his death and resurrection. In [1 Timothy 1:15](#), the Apostle Paul tells us that purpose. [15 Here is a trustworthy saying that deserves full acceptance: Christ Jesus came into the world to save sinners—of whom I am the worst...](#) Jesus's purpose was to save sinners, and that would not be accomplished by simply showing his glory. It would be accomplished by dying on a cross and then rising again so the whole world and not just 3 disciples could learn of his glory and true identity as God the Son. That glory would not be revealed until after his resurrection which of course must come after his death. His purpose was his glory, but his glory would be revealed through his death and

resurrection that would provide salvation for all those who follow him by repentance of sin and believing in Jesus as their Lord and Savior.

Elijah was clearly on their minds after seeing him with Jesus in person, and so changing the subject in a way, they ask about Elijah and Jesus uses their question as an opening to reinforce what he is saying about his death. Since they had seen Elijah, it naturally occurred to them that this may be what the Scribes, the religious scholars were referring to when they taught on the Old Testament. Jesus confirms that this understanding is correct in the first part of verse 12, **12 And he said to them, "Elijah does come first to restore all things"** This is based on Old Testament passages like Malachi 4:5-6. **"Behold, I will send you Elijah the prophet before the great and awesome day of the Lord comes. 6 And he will turn the hearts of fathers to their children and the hearts of children to their fathers, lest I come and strike the land with a decree of utter destruction."** But unlike the religious teachers who taught rightly that the coming of Elijah would precede the coming of the Messiah to an earthly throne, Jesus tied the appearance of Elijah with a Messiah who would **suffer many things and be treated with contempt** in verse 12.

Even after seeing God's glory revealed in such an incredible way, the disciples were still clinging to a misunderstanding of what he came to do as their Messiah. His glory would not be revealed by dwelling in an earthly tent or even a castle or a palace. His glory would be revealed by the **Son of Man**, a title for the Messiah, suffering and dying for our sins. In the same way, the one who actually was the prophesied return of the prophet Elijah, John the Baptist experienced as he was killed by beheading. Jesus is referring to that when verse 13 ends, **Elijah has come, and they did to him whatever they pleased, as it is written of him.** Like John the Baptist before him, Jesus would be put to death, but his death would accomplish what no other death could. **Romans 5:19 says, For as by the one man's disobedience the many were made sinners, so by the one man's obedience the many will be made righteous.** Jesus's obedience was his death on the cross. That death displays his greatest glory because just like he was resurrected from the grave, when we repent of sin and follow Jesus as Savior and Lord, his grace is extended towards us, a sinner, who is under a death sentence, but receives life through the righteousness of Jesus Christ given to us. But too many times we are so focused on what we can "do" as a Christian that we fail to really grasp how glorious our Savior is. Like Peter, we run to the first available way we can serve him, rather than listening to him, learning from him, basking in his glory and becoming more and more like him. That doesn't come from doing...it comes from being. Being with Jesus...reading the Word of God that reveals him to us...spending time in prayer... being with the people of Jesus as we gather for worship and learning to be disciples together in the church. Why are so many of our Christian lives no different than those of non-Christians around us? Because instead of our life with Christ being one of experiencing his glory shown to us in the gospel, it has become something we do – go to church, go to Sunday School, pray before a meal... But we have neglected the most important thing, listening and spending time with Jesus so that we fully experience and get to see the glimpses of his glory that we can see as his disciples. Let's pray.